



細谷拓司 2009年卒

株式会社 富士薬品(研究員)  
千葉大学 大学院 薬学研究科修士課程修了  
群馬県 富岡高等学校 出身

鈴木達彦 2012年卒

ノボ ノルディスクファーマ株式会社(MR)  
千葉県 市原中央高等学校 出身

神谷絵美 2012年卒

株式会社スギ薬局 (薬剤師)  
千葉県 佐原高等学校 出身

鈴木文子 2012年卒

トモニティ株式会社 みどり調剤薬局(薬剤師)  
東京都 江戸川女子高等学校 出身

本日は、卒業生4名に「今の仕事」と大学生活を振り返ってのお話を伺いました。

「社会」で何を感じていますか？

(神谷) そうだなあ。私は勉強不足を痛感しています。ホントに患者さん一人ひとりに十分な投薬ができていないのか……。大学時代、教科書に書かれていること、その一つひとつを理解していたつもりなんですけど、投薬の時にはたくさんの知識を統合して、「患者さんが本当に欲している情報」を、「患者さんが安心してできる言葉」でお話してあげられているのになって不安になって……。

(鈴木達) でも、ホント勉強って大事だね。僕はMRなんだけど、文系4年卒の先輩たちのクスリに関する知識量の多さに圧倒されているよ。僕たちは学生時代に6年間、薬学の勉強してきたのに……。でもだからこそ、僕は「薬剤師」であることを最大の武器にしてMRとして勝負していこうと……。

(鈴木文) 私は今の調剤薬局で働いているけど、これからは「在宅」は欠かせないって感じています。だから、ホント大学時代にもっとまじめに勉強しとけばよかったって(笑)。でも、なんでだろうね。今は、本当に「勉強が大事」って思えるのに、学生時代は、主体的に勉強に取組めなかった……。

(細谷) それって、責任感とか使命感だと思う。やっぱり会社の一員になって、会社への貢献とか考えるでしょ。ましてや薬剤師だったら、「目の前の患者さんの生死」にも関係するから。僕はメーカーの研究職だけど、今は純粹に「研究が面白い」からいろんなことにチャレンジできるけど、将来的な自分のポジションとかも頭の片隅ではチラつくから頑張らなきゃって思う気持ちも嘘じゃないからね(笑)

(鈴木達) いやあ〜、仕事の緊張感ホントすごいね。休みの日でも、メールチェックとか欠かせないしね。(……といながら、この日も頻りにノートPCをチエックしていました)

(細谷) 達彦はマジメだからな(笑)でも、1年目はそれくらいの緊張感があってもいいと思うよ。2年目にもなると、少しずつだけ仕事のペースもわかるし、「抜き方」も身に着くようになるから。最初はホント、「習うより慣れろ」じゃないけど、ついて行くのが精いっぱいだった去年を思い出すよ。



今の職種・会社を選んだきっかけは？

(鈴木文) 実は今、リクルーターの関係で、よく聞かれるんです。その質問。私は今、「仕事が楽しい」って感じられるからいいんだけど、就職先はしっかり考えて選ぶべきだと思う。周りには、もう「思っていたところと違った」って言うてる人もいるし。

(鈴木達) 僕は大学2年くらいからMRという職業を目指していた自分がいて。広く社会と関わることを望んでいたのかな？ メーカーに入って品目を担当すれば、もちろん薬剤師として「分野に特化した専門性」が身につくだろうし、それ以上に社会の仕組みっていうのか、さまざまな職種の人たちとも関わられて、より自分の世界観が広がるだろうなって。実際入ってみると、ホントやらなきゃいけないことが多くて……。思っていた以上に大変な仕事です。でも、そのぶん「やりがい」も感じているし、充実しています。そういう意味では、いい環境に就職できたなって思っています。



(細谷) 僕も大学2年の頃から「研究職」を目指していたんだ。たまたまアドバイザーの先生が、研究室の実験にも触れさせてくれて。結果、大学院への進学も「当たり前」のように決めていた。就職先については「他」を知らないから何とも言えないけど、「大好きな研究」ができてい的是ありがたいよ、ホント。

(鈴木達)「キャリアパス」とか「キャリアデザイン」とか言うけど、将来をイメージしてまで会社選ぶのは難しいなって実感する。とにかく目の前を、一步一步。歩んだ先には、必ず道はあるって信じてね。

(神谷) 私も「やりたいこと」やるために会社を選ぶって難しいと思う。学生がイメージする「会社」と実際の「会社」は当然ギャップがあるしね。私の場合は、だからこそ「いろんなことができそう」だったから今の会社を選んだんだ。あと、「研修」が決め手になったかな？ 就活学生のために開いてくれた「研修」に参加して、そこに参加した同級生や会社の方というお話しできて。

(鈴木文) 実際にその会社の人といろいろ話をするのは、本当に大事だと思う。自分が納得するまで、しっかりと話しをすること、ホント大事です！

大学時代を振り返って……

(鈴木文) さっきの話と重なるんだけど、ホント、もっと勉強しておけば……。 (笑)

(神谷) 私は、もっといろいろな人とコミュニケーション取っておけばよかったかなって。

(鈴木達) ホント、会社入ると時間がなくて。学生時代って、あれだけ時間があって……今更に「もっと、～しておけばよかった」って思うこと多いよね。僕は海外旅行かな？

(細谷) 懐かしいね。今でも大学時代の友達とは時々飲んでるよ。こういう仲間と出会えたことが「財産」だと、改めて感じるね。研究所にいて、どうしても職種の近い人との出会いが多いから……。昔の仲間がいろんな分野で活躍している話を耳にすると、ホントいい刺激になるし、自分の仕事にも応用できそうなヒントをもらえることもあるしね。

(鈴木達) そういう意味では、大学時代にもっといろんな「繋がり」を広げておけば良かったって思うときもあるかな。先輩、同期、後輩。それから全く分野の違う人たちともね。いろんな人の経験や考え方をシェアできるっていいことだよな。

(鈴木文) 出会って、大事だね。今の会社でもいろんな出会いがあったし、大学時代も振り返れば人との出会いが大事だったのかな？

(神谷) 結局、「今」だから言えるんだよね(笑) 大学生の時は、何も気付かなかったもんね。時間と場所と立場とタイミング。「たれば」になっちゃうけど、だからこそ「今」もっといろんなことにチャレンジしようと思えるもん。



最後にメッセージを

(鈴木文) 学生時代は、バイトも遊びもいろんなことを経験して欲しいな。しかも全力でね。

(神谷) いろんなことに「躊躇」しちゃう気持ちも分からなくないけど、「経験は、した人にしかわからない」こともたくさんあるからね。

(鈴木達) ホント、世界を拓けるっていうか、どんどん自分を出せていけるような経験をね。一歩でも、半歩でも前に進むような日々を過ごして欲しいね。

(細谷) やっぱいいね、こういう仲間って。後輩たちも「本音言える仲間」を持って欲しいな。話聞いているだけで、自分も「もっと頑張ろう」って思えてくる。絶対また集まって、みんなでまた語ろうぜ。

## 「遠くの大病院よりも、近くの頼れる薬剤師に！」

超高齢化と国際化が進む日本社会のこれからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出を目指しています。

従来の医療薬学のみならず、栄養、福祉、看護・介護、セルフメディケーションなどの幅広い専門知識と国際感覚を有し、あらゆるライフステージにある人々の健康に興味・関心を抱き、人々から信頼される、地域に根ざした薬剤師を養成します。

### 九十九里地域医療夏期セミナー 2012

## 地域医療を考える

主催：九十九里地域医療協議会

共催：千葉県立東金病院、山武郡市医師会、山武郡市歯科医師会、山武郡市薬剤師会、

城西国際大学、NPO法人地域医療を育てる会、東金商工会議所、地方独立行政法人さんむ医療センター 後援：大網白里町、九十九里町、山武市、東金市（50音順）



「九十九里地域医療夏期セミナー」は、地域医療に関わる医師、保健師、看護師、薬剤師、また地方行政や地域医療関連施設の方々に加え大学生や高校生、一般市民が参加して、「地域医療のあり方」についてフィールドワーク研修を交えた実践的討議を行う宿泊セミナーです。本学薬学部が参加して3年目になりますが、初めて参加した2010年のセミナーは、千葉県知事より「第1回 ちばコラボ大賞」に選ばれました。

2012年4月開設 **大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程**

城西国際大学 入試・広報センター

TEL: 0475-55-8855 E-mail: [admis@jiu.ac.jp](mailto:admis@jiu.ac.jp)

<http://jiu.ac.jp/pharmacy/graduate/index.html>